



理科タジャシ:「赤」から「青」に変わって、歩けるぜい!(アルカ性)

道標~みちしるべ~

松戸市立六実中学校
第3学年・進路通信
NO. 31-2
令和3年2月15日

~今週のスケジュール~

*清掃13:05~10 *帰りの会13:20~30 *下校15:15

日	パターン	午前の日課	時間	チーム SAWA	チーム NAKA
15日(月)	B	月1235	13:40~ 14:35	作文・面接(集・個)・スピーチ・実技 *職員会議のため30分程度	
16日(火) 計画書準備	C	木1236	13:40~ 15:10	45組 理・社	123組 国・数・英
17日(水) 給食なし	A	学活 8:45~9:30	9:40~ 11:10	123組 国・数・英	45組 理・社

志願変更について: 1回だけ、志願校【志望する学校、例えば松戸東高校から松戸西高校へ】か、希望学科【希望する学科、例えば松戸西高校の普通科から理数科へ】を変更することができます。

*日時: 17日(水)の9:00~16:30、18日(木)の9:00~14:00

*手順 ①: 出願手続き変更願(青い紙)を中学校に提出する。

②: 願書を提出した高校に「受験票」「志願取消届」を提出し、「志願取消証明書」・「返信用封筒」や「必要に応じて提出した書類」を返却してもらう。

*希望変更の場合は印鑑を持っていく。

③: 中学校で願書を新たに書く。(赤と黒のボールペン、印鑑、定規、写真2枚)

④: 新たに志願する高校に新しい願書と、②の書類と「調査書」を提出しに行く。

⑤: 中学校に返ってきて、受理証や受験番号を報告し、下校する。

*志願変更の志願者状況は17日の午後6時、19日の午後4時にHP発表、その後新聞発表の予定。

18日(木)	B	学活 8:45~9:30	9:40~ 12:30	作文・面接(集・個)・スピーチ・実技	
19日(金) 事前指導	C	金1~4	13:40~ 15:10	45組 理・社	123組 国・数・英
22日(月)	自宅待機日(必要な生徒は登校)				
23日(祝)	天皇誕生日				
24日(水) 25日(木)	一般入学者選抜 9:30集合・受付(開門は9:00~9:10が一般的) *体調不良は高校と中学校に連絡 持ち物 ・受験票(裏に正しいスケジュールを貼った状態で) ・自己表現受理証 ・健康観察カード(本校・高校指定) ・時計 ・筆記用具 ・生徒手帳(受験番号をメモ) ・上履き ・電話代 ・高校入試計画・報告書(自己採点) ・弁当&水筒 ・防寒着 ・学習できるもの ・薬 ・ティッシュ ・タオル ・消毒できるもの ・マスク予備 ・お守り ・カイロ ・その他()				
26日(金) 給食最終	学年内日課		9:40~ 13:30頃	3年生を送る会や卒業式などの準備をします。	

～ 出願に行ってみて、こんな言葉があったよ ～

流山おおたかの森(進路室前)

松戸六実(正門の掲示板)

〈学年主任より〉

とある芸人さんの話。この芸人さんは7～8年ほど全く売れず仕事がなかった時期があるそう。普通なら諦めて別の仕事についてもおかしくない。けど、彼は芸人をやめようとしなかった。なぜかという、彼には尊敬する先輩が3人いたのだが、3人が口をそろえて「お前は面白いよ」と言ってくれたから。彼は、その言葉だけを信じて芸人を続け、今では「超」がつくほどの売れっ子になっている。

「自分を信じてくれている人間」が、そばにいてくれる人は強い。そして、「自分を信じてくれている人間を信じられる人」は、もっと強い。

逆に、ただただ誰でもいいから「誉めてほしい」、「才能を認めてもらいたい」と思っている人で、成功した人を私は見たことがない。それって一人よがりだもんね。

瞬間さ

輝いている

誰よりも君が一番

くじけそうなら

思い出して

夢を追う君へ

サザンカより



～東日本大震災から10年。卒業式に想いを馳せて「答辞」～

今日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか私たちのために卒業式を挙げて頂き、有難うございます。

ちょうど10日前の3月12日、春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を57名揃って巣立つはずでした。前日の11日、一足早く渡された思い出の詰まったアルバムを開き、10数時間後の卒業式に思いをはせた友もいたことでしょう。

「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らず…

階上(はしかみ)中学といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし 自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切な物を容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むご過ぎるものでした。

辛くて、悔しくてたまりません。

時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く正しく、たくましく生きて行かなければなりません 命の重さを知るには、大き過ぎる代償でした。

しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。私たちは今 それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。

どこにいても 何をしようとも、この地で仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん。

階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が如何に貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。

先生方、親身のご指導有難うございました。

先生方が如何に私たちを思っていて下さっていたか、今になって良く分かります。

地域の皆さん、これまで様々なご支援を頂き有難うございました。これからも宜しく願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん。

これから私たちが歩いていく姿を見守っててください。必ず良き社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に…本当に…有難うございました。

平成二十三年 三月二十二日 第六十四回卒業生代表 梶原 裕太 (避難所になっている体育館内での答辞)